

気管支喘息

気管支喘息の典型的な症状は喘鳴（ゼーゼーといった荒い呼吸）や呼吸困難ですが、咳ばかり強い喘息や、呼吸困難がはっきりしない喘息の患者さんでは多くが無治療となっています。気管支喘息はわずかの予防薬を毎日使用することによって、健常人と変わらない日常生活や運動能力が期待できるとされています。

Q 1

気管支喘息とはどんな病気ですか？

A 1

刺激物質の吸入や風邪がきっかけで、気管支が突然細くなり、このために呼吸困難や咳、痰で苦しむ病気です。大概の場合は時間がたてば元気になることも特徴です。

Q 2

どんな人が病院にかかればよいのでしょうか？

A 2

気管支喘息かどうか分からない人

- ・ 風邪を引いた後 2～3 週間たっても咳ばかりが残り、特に夜間や早朝の咳に悩まされている
- ・ 寒い時期の朝方に、少し運動をすると息が苦しい・ぜいぜいする
- ・ 小児喘息があり、思春期をすぎても 1 か月に数回はぜいぜいしたり、痰がからむ
- ・ 気管支喘息と診断がついている人
- ・ 1 日に 4 回以上気管支拡張薬のスプレーを吸入している
- ・ 気管支拡張剤（テオドール、ユニフィル、メプチンなど）の内服だけで治療を受けている
- ・ 苦しいときのみ、吸入ステロイドを使っている

Q 3

アレルギーが原因ですか？

A 3

アレルギーが原因の気管支喘息もあれば、そうでないものもあります。大人の喘息ではアレルギーがはっきりしないものが多いようです。

Q 4

子供の病気なのでは？

A 4

大人の喘息は子供の喘息よりは頻度が少ないのですが、呼吸器内科では最も患者数が多い疾患です。大人の喘息は咳ばかり強いものや、痰がからむなど典型的でないものも多く見られます。

Q 5

遺伝しますか？

A 5

親が喘息ならば子供が喘息になる可能性は高いのですが、遺伝的要因と生活様式の要素がからみあって発症すると考えられています。

Q 6

小児喘息は治ると聞いたのですが

A 6

小児期喘息の多くは思春期に消失・改善します。しかし、改善しても20歳過ぎに再発する方も少なくありません(小児喘息であった方は決してタバコを吸わないようにしましょう)

Q 7

アレルギーが原因だと何に関係しますか？

A 7

圧倒的に多いのはダニとハウスダスト(家塵)で、犬、猫、ハムスター、ゴキブリなどが原因のこともあります。北欧では白樺も原因として多いようですが、わが国の杉花粉は粒子が大きいので、肺にまで到達しにくく、喘息の原因にはなりにくいと言われています。ハウスダストアレルギーの主成分はダニの死骸や代謝物です。

Q 8

治りますか？

A 8

喘息は体質に由来する疾患なので、治ることはありません。年齢や妊娠の影響で「治った」といえるほど良くなる方もいますが、10年くらい落ち着いても風邪などをきっかけに発作が出ることもあるので、治るのではなく眠っていると考えたほうが良いと思います。

Q 9

それでは治療しても仕方ないではありませんか

A 9

発作にビクビクしながらの生活や、発作による約束のキャンセルは信用にもかかわります。軽い喘息だからといって安全とは限りません。発作のため病室から式場に向かった花嫁さんや、病院まで歩いて来たのに、発作がどんどんひどくなって不幸にも亡くなった患者さんもいます。現在の治療は発作を止めるのではなく、予防重視の治療に移りつつあります

Q 10

治療をすればそんなによくなるのですか？

A 10

喘息治療の目標は、予防薬を使って健康の人と同じ生活を送ることです。長野冬季オリンピックの米国選手の18.4%は気管支喘息の治療中でありました。

Q 11

薬を使ったら副作用が心配です

A 11

喘息の薬は長期間使用するため、安全性には注意が払われています。長期間安全に薬を使い続けるために、少量で済み、肺にだけ作用がある吸入薬が多く使われます。

Q 12

確かに、よく発作が起きて吸入をしている友人がいます

A 12

残念ながら、そのお友達は良い治療がされていません。良い治療とは予防の吸入薬を沢山使って発作が起きないようにすることです。発作が起きているのは、おそらく予防薬が不足しているからです。発作止めの吸入の「乱用」は非常に危険とされています。

Q 1 3

病院に通う暇がありません

A 1 3

予防薬で発作が全く起きなくなれば、薬を変える必要はないのですから、比較的長期の処方をしてよいと思います。

Q 1 4

妊娠したら薬は使えなくなりますね

A 1 4

吸入薬は肺だけに到達するように工夫された薬なので、大量を使わない限り妊娠に問題はありません。発作でお母さんが苦しい時には、おなかの赤ちゃんも苦しいはずですが、妊娠中には副作用の少ない薬を選んで、お母さんも赤ちゃんも安全な出産に向かうべきです。

Q 1 5

病院に通っているのに一向によくなりません

A 1 5

治療が不十分な可能性があります。しかし、その病院では副作用を考慮して治療を若干抑え気味にしている可能性もあります。煙草を吸っている年配の方では、気管支喘息だけではなく慢性閉塞性肺疾患（ホームページを見て下さい）が混ざっている可能性もあります。

Q 1 6

喘息が良くなったら治療を止めていいですか？

A 1 6

高血圧や糖尿病と同じに考えて下さい。薬を止めて暫くすると元の状態に戻ってしまうので、薬の量を減らしても止めることは賛成できません。

Q 1 7

大病院や専門病院で治療を受けるのが良いのでしょうか？

A 1 7

最初は専門医のほうが良いこともありますが、安定した状態になれば、通い易い近くの医院で治療を継続した方が良いでしょう。健康保険制度では医院のほうが医療費が若干高くなる場合があります。

Q 1 8

タバコだけでなく、お酒もいけないのですか？

A 1 8

お酒は代謝物が喘息を引き起こすことがあるので、飲酒で息苦しさや喘鳴を感じた人は、飲まないか少量でやめた方が良いでしょう。

Q19

咳喘息という特殊な喘息だといわれました

A19

咳ばかり強く喘鳴や呼吸困難に乏しい喘息を咳喘息と呼びますが、咳のために眠られなかったり、肋骨の骨折などで苦しむ方もいます。しかし、治療法は普通の喘息と大きな違いはありません

Q20

日常生活の注意点はありますか

A20

喘息に限ったことではありませんが、規則正しい生活や、家屋の清潔は大切です。

Q21

小さいときから喘息ですが、あまり困っていないのですが

A21

治療を受けて初めて安全で快適な生活を実感する人が多くいます。まず2～3ヶ月治療を受けてみて下さい。

※気管支喘息の治療に関する詳細（Q&A）は[こちらのページ](#)をご参照下さい。